
『死人』と呼ばれる彼女（仮）

葵 束

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『死人』と呼ばれる彼女（仮）

【Nコード】

N4009Y

【作者名】

葵 束

【あらすじ】

唐突に思いつき書きたくなった短編小説。

死人。

そう言われる女がいる。

土に埋もれたような髪の色で、表情に生気がない。

そもそも、顔の上半分ほど前髪で隠れている。

さらに腰にかかりそうなほど長い髪も手入れしてないのか、色々な方向に曲がっていた。

話すことも余りせず無口。

総合して、死人を簡単に連想させる雰囲気纏っているのだ。

しかし彼女は余り嫌われていない、かと言って好かれてるわけでもない。

初めて見た人にとっては、その姿は死人を連想させるような姿だ。

だが長年見ていると、生気のない表情や一つ一つの仕草が女性らしいと見えてくる。

例えるなら、磨いていないダイヤのような女性だ。

隠れた前髪からたまに覗く垂れた目や、極稀に喋る言葉。

髪の毛や少し大きい制服で分らないが、その体は平均的な女性より女性らしい。

いわゆるグラビアに出てきそうなスタイルだ。

しかし、それらが雰囲気でも相殺されている。

だが彼女は美しい。

(と、言ったら変な目で見られるよな……。)

俺はそう思いながら、友人との談義中に彼女を見る。

静かに次の授業をして、予習なのかノートに何か書き始めた。

事実彼女を嫌う者がいても、好くような者はいない。

誰にも聞いたことはないが、恐らく全員が思っていることだ。

そんな中で、彼女に好意的な発言をすれば痛い者を見るような目で見られるのが必然。

だから俺は何も言えない。

密かに彼女を見ながら、周囲に溶け込む。

つまらないことを友人と話しながら、周囲に彼女に興味がないように見せかける。

だが、心では彼女に興味があった。

(後書き)

とりあえず、ここで熱が冷めたため終了。

書き終わって、誰か考えてそうな気がしたしね(笑)

需要もなさそうだし……。

……もし必要ななんかあったら、感想書いてくれると嬉しいかも……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4009y/>

『死人』と呼ばれる彼女（仮）

2011年11月16日17時40分発行